

私たちはだれもが「健康で安全な社会生活を送り、安心な毎日を過ごす」ことを望んでいます。しかし、日々の暮らしの中ではそのような生活が脅かされるようなこともあります。厚生労働省の薬物乱用に関するデータによると、「令和5年中の我が国の薬物情勢は、大麻事犯の検挙人員が6,482人にのぼり、過去最高値を大幅に更新するとともに、初めて覚醒剤事犯の検挙人員を上回り」また「検挙人員は、7割以上が30歳未満であり、若年層における大麻の乱用拡大に歯止めがかからない状況にあります」と警告しています。そして「大麻についてはインターネット等で、『有害性がない』などの誤った情報が氾濫しており、青少年の大麻乱用の拡大につながっている」と推測しています。このような中、健康被害の未然防止及び薬物乱用防止の観点から、違法薬物の危険性について継続的に中学生・高校生に考えさせる活動として薬物乱用防止ポスターを募集することは、少なからずその活動に貢献するものと考えます。

今年度の薬物乱用防止ポスターの募集は、県内の中学校・高等学校から99点の作品の応募がありました。昨年より26点少ない出品でしたが、質が高く、薬物乱用防止に対する思いや関心の高さが伺える作品が集まりました。

中学校からは15校87点の応募がありました。授業で取り組まれた学校や部活動で時間をかけて制作された学校の作品が見られました。イメージや色彩を対比させながら使い、薬物の危険性を効果的に表現している作品が多く、標語の持つ力を引き出す書体の色や形の工夫が感じられました。

高等学校からは3校12点の応募がありました。出品数は多くないものの、完成度の高い作品が多くみられました。画面の構成要素を厳選し、色彩は彩度差や明暗差、色相の対比を上手く使い、すっきりとした作品にまとめられていました。また、図柄を的確な言葉で表し、見る人の心に響く作品が多かったと思います。

選考の基準として、次の三つの観点について設定しました。一つ目は、薬物乱用防止の趣旨を理解し、視覚伝達というポスターの機能性を描いているか。二つ目は、不気味で恐ろしい表現に偏らず、発想が豊かで独創的かつ効果的に表しているか。三つ目は、標語の意味が伝わりやすくメッセージ性が高く、レタリングを丁寧に行い、見やすい文字を構成しているか。以上の点に留意し、審査を行いました。

今回県知事賞を受賞された作品は、積み木と自分の人生を重ね、薬物へのちょっとした好奇心が人生を一瞬で危うい状況に陥れることを的確に表現しています。出生時から家族に支えられ、周りの人々の温かい見守りの中育まれた大切な時間の経過が、彩度の高い美しい色彩で積み木の中によく表現され、対照的に暗い外部から侵入してくる指によって、脅かされる日常の危うさを見事に描いています。また、健康福祉部長賞でクリアファイルのデザインに採用された作品は、左右対称のシンプルな構図で、その世界観の違いを効果的に表現することに成功しています。想いが届き、人に支えられる温もりのある世界と孤独で薬物に依存しようとする冷たい世界が暖色と寒色で表現され、ピクトグラムのように単純化された図柄は、見る人に強いインパクトとメッセージを届けます。

他の入賞作品も緻密に描かれた作品が多く見られました。指導にあられた先生方のご助言、またその指導を受けて根気強く取り組まれた生徒さんの熱心な活動に敬意を表します。

来年度の実施におきましても、薬物乱用防止啓発活動の趣旨を多くの先生方にご理解いただき、今年度以上に質の高い作品が数多く出品されることを期待しますとともに、想像する喜びを生徒がしっかり感じるような美術教育がますます発展しますことをお願いし、講評といたします。